

高齢社会をよくする 女性の会会報

No.116 1999年12月発行

高齢社会をよくする女性の会
東京都新宿区新宿2-9-1
第31宮庭マンション802号室
TEL. 03-3356-3564
FAX. 03-3355-6427
郵便振替 00100-0-79477



— 目 次 —

10月特別例会	1
国際シンポジウム「日韓嫁学事始」	4
10月例会国際高齢者年記念シンポジウム	7
リレー・エッセイ⑤⑧野崎節子	8
男・老いを語る⑥坂本祐之輔	9
本の紹介、事務局だより	10

第7回 国際社会福祉—韓国比較—座談会
高齢者介護와 女性の役割
日時: 1999年11月4日(木) 午前10時00分～午後1時00分 場所: 韓国女性開発院 講堂

この交流が日韓の女性たちのネットワークを作ることになるので、奮ってご参加くださいとあいさつした。

袖井孝子さんの講師紹介によると、金益基教授はソウル大学で社会学を学びアメリカのサウスカロライナ大学およびミ

シガン大学で人口問題、老人問題を研究し、現在は韓国の東国大学教授であり、今年の八月に上智大学客員教授として来日し活躍中。

金教授は、日本語をアメリカで学び日本語での講演は初めてということだったが、最後まで流暢な日本語で話された。

韓国で大規模な高齢者調査を行い日韓の比較研究を実施したことを踏まえながら以下のようにまとめられた。

人口の高齢化と介護ニーズ

日本も韓国も短期間に急激な社会経済的变化を経験している。急速な経済、発

◆十月特別例会◆
一九九九年十月十四日(木)
於・虎ノ門国立教育会館

**韓国における
高齢化の進展と高齢者介護**

講師・金 益基 (東国大学教授)
司会・袖井孝子 (お茶の水女子大学教授・当会理事)

十月特別例会は、十一月四日にソウルで行われる「日韓国際社会福祉セミナー」ツアーへの事前研修を兼ねて開かれた。

開会に先立ち樋口代表は、日本と韓国は同じ儒教圏として女性の立場など共通したところがある。その韓国で家族と介護について話し合うというこのセミナーは国際高齢者年にふさわしい企画である。近くて遠い国であったということもありこの交流が日韓の女性たちのネットワークを作ることになるので、奮ってご参加くださいとあいさつした。

袖井孝子さんの講師紹介によると、金益基教授はソウル大学で社会学を学びアメリカのサウスカロライナ大学およびミ

展により大きな人口変化を生じさせた。韓国では高出生率、高死亡率から低出生率、低死亡率へと日本に遅れながらも後を追って変化して来た。

急速な高齢化は、高齢者の長期介護という問題への解決を必要とする。心身に障害のある高齢者の長期介護は、すべての高齢者、大部分の多世代家族、多くのサービス提供組織、そしてさまざまなレベルにおける政府機関にとって、重要な関心事である。

人口転換

韓国では一九六〇年代以降急速な工業化と都市化が進み、一九六二年から一九



流暢な日本語で話される金教授

六六年の第一次経済開発計画の間、国民総生産は年間七%の割合で成長し、それに次ぐ第二次経済計画が実施された五年間には、一一・四%とさらに高い成長率を示し、その頃から韓国の経済は、着実に成長を遂げていった。

人口は一九六〇年には二、五〇〇万人だったのが一九九〇年には四、三四一万人に増加した。

韓国では一九五〇年から一九五三年の朝鮮戦争により一六〇万人の戦死者を出し、北から南への人口移動があった。その影響が平均寿命の男女差に現れている。

平均寿命が一九六〇年時点で（男性五・一歳・女性五七・三歳）、一九七〇年には（男性五七・二歳・女性六四・一歳）、一九八〇年には（男性六二・七歳・女性六九・一歳）、一九九〇年には（男性六八・二歳・女性七五・〇歳）と伸び続け高齢化を引き起こした。一方出生率は一九六〇年には千人あたり四十五という高い値を示していたが徐々に減少し一九九〇年には十五・六にまで低下した。高齢化率も一九六〇年には六〇歳以上（途上国に

おいては高齢化率を六〇歳以上でみる）五%だったのが、一九九〇年には七・六%になり二〇二〇年には二〇%になると見込まれる。

韓国の高齢者のおかれている現状

六〇歳以上の有配偶高齢者の割合が一九九〇年に五〇%を越えたが、ここでも男女間格差は大きく、男性の場合は八〇%を越えるが女性の場合は三〇%に満たない。

都市化と工業化は若い人口の都市への集中を生み高齢者が農村に取り残される結果となった。農村の高齢者の割合は都市の二倍である。一人暮らしの高齢者が都市で九・六%なのが農村では十五・〇%、配偶者とのみ同居が二一・六%対三九・〇%、子供と同居が六四・一%対四〇・一%となっている。

このことは農村における高齢者問題が大きな問題であることを示唆している。

日韓高齢者の比較

学歴、日本では八〇歳以上の人でも無



質問する沖藤さんと、樋口さん



答える金教授と、司会の袖井さん

学者は一〇%もないが韓国では六五〜六九歳でも無学者が四〇%おり、八〇歳以上だと七八%に及ぶ。このことが韓国の老人の依存度を強めている。

韓国では孝の思想が強いため、家族に依存する。特に機能的な障害をもってする場合それはより強い。介護が必要な老人が家族の関心を引くために、できないのできない振りをする。これがADL、IADLを低めている。

日本のほうが平均年齢で六歳高いのがADL、IADLともに韓国より高い。日本は韓国より人口高齢化が早く進んだため、政策が早く取られた。また、教育水準の高さが高齢者自身に老化に対応する力を高めた。(注) ↓

韓国の高齢者政策

韓国の民法では親への扶養義務を明文化しており、親族による扶養や介護が期待され高齢者の間にもそれを望む意識が高い。年金制度は軍人、教員、公務員しか対象にしておらず、ようやく新しい国民年金制度ができ二〇〇八年から支給さ

れることになった。このため家族との同居は、高齢者支援にとって最も望ましい形態で、経済的支援、情緒的支援、身辺介助などすべての支援が同居という形態によって可能になると考えられている。孝行を土台とした敬老精神が韓国文化に深く根付いており、社会経済および人口の変動によっても失われていない。家族は高齢者の扶養という役割を依然として保持している。また、国家予算においても環境問題など多くの難問を抱えており、高齢者介護に予算を回せないというのも実情である。

Q & A

会場から韓国での介護における性比について多くの質問が出た。

1 高齢者の介護者は？

配偶者が介護するもの四五・七%（うち男性に対する主介護者の八〇・七%が妻で、女性の場合夫が介護するもの二〇・二%）、続いて長男の妻が二三・七%、その他の子供の妻七・六%、娘八・一%となり介護は女性が行っている。

注：ADL-日常生活動作・IADL-手段的日常生活動作（家事、金銭管理等）

2 家族介護について社会問題化はしていないのか？

農村部では子供が出て行ってしまったとか、都市部では子供の側から同居をしたくないといったことが増加しているなど様々な問題があるものの表面化しにくい。孝行の意識が強いのだが、急速な社会的な変化で意識も複雑に変化している。

袖井さんより、「老人虐待もあるが隠すそうで表面化しない。二〇年くらい遅れているようです」との注釈有り。

3 出生児の性比について？

少子化の傾向が進むにつれ子供の産み分けをしている。男子を中心とした伝統により男女差別が強い。そのため男児を産みたいという意識が強く〇歳から四歳の性比を見ると、女兒一〇〇に対し第一子は一・二・四なのに第三子では一七九・四という比率になっている。

白熱した質疑応答の中から、韓国でのシンポへの期待が生まれ閉会となった。

(白井千賀子・記)

国際シンポジウム

「日韓嫁学事始」

ソウル二泊三日の旅に東京・大阪から三十四名の参加



近くて遠い国、知っているようで知らない国、これが韓国のイメージだった。

日本の高齢化率やスピードに比べると韓国では二〇〇〇年に七・一%、スピードは日本よりも更に早く、二〇一〇年には日本と同じになるので、老人介護は将来の社会問題として大きな課題だ。反面、儒教道徳がしっかり根付いているため社会保障も遅れがちで、介護は家族、とりわけ嫁に期待されるものが大きい。近年の社会状況の変化から介護問題を考え直す気運が高まって来るのは当然のことといえる。

ソウル空港からデイサービス施設の「南部老人福祉館」へ直行し見学した。豊かな老後生活ができるよう、趣味、健康増進、教養等の外に、簡単な手作業で収入につながるもの等、多様なプログラムが



ソウル市南区にある「南部老人福祉館」の利用者たち

あった。当会が持参した折り紙でツルを作り、心ばかりの折り紙外交もできた。中・高校生のボランティアの人達が（授業の単位になる）高齢者のリハビリを手伝っていた。入所者のいきいきとした顔は印象的だった。

シンポジウム

『日韓嫁学事始』

「高齢者介護と女性の役割」を主題に基調講演と討論会。韓国側からは、韓国共生福祉財団会長・老人福祉の専門家・大学教授・政府・新聞社・日本からは樋口代表と袖井孝子、沖藤典子さんが登壇。
基調講演

樋口さんは「女性の地位をめぐる光と影」「高齢化社会と女性」「介護保険をめぐる動きとジェンダー」について日本の現状を示された。

金兌鉉誠信女子大学教授は、「老人介護と女性の役割」をテーマに、高齢者介護の環境と女性の役割の変化について述べられた。

韓国には現在「ケア」「介護」という用語は無く「保護」又は「扶養」だけなので家族学では介護に当たる言葉をつくるよう申し入れている。高齢者人口はこの三〇年間に一六・一％に。とりわけ後期高齢者は今後三〇年間に二九・二％に増加すると予測される。それに対し、核家族

化、少子化、意識や価値感の変化、女性の社会参加、高学歴化等により、介護は伝統的な扶養意識即ち家族中心の扶養体系を越え、社会的介護と高齢者の自立支援が今後の課題で、その実現のために

- (1) 高齢者介護に男性も参加
 - (2) 介護という仕事を社会的に評価
 - (3) 社会的介護体系の確立
- が必要であると提言された。

討論会

日韓のパネリストによるシンポジウムで、袖井さんが日本の在宅ケアの実態や介護休業制度、介護保険について現状を提示し、それを受けるかたちで、

韓国側からは、介護及び育児は男女が共同で。介護休業制度は現在公務員にしか無いので民間も導入し、高齢者専用の就業斡旋機関をつくる必要がある。

日本側からは、沖藤さんが低賃金のホームヘルパーで社会の嫁を生産させたくない。長男の嫁の介護責任はこれまでの三重苦から少子化時代で四人の親と夫の介護で五重苦の時代になると警鐘を発した。朴英欄女性開発院首席研究員からの問

高齢者介護와 女性の役割

日時: 1999年 11月 4日 (木) 午前10:00時 - 午後17:00時

場所: 韓国女性開発院 国際會議場



日本側からシンポジウムに登壇した吉武さん、沖藤さん、樋口さんと韓国側の皆さん

題提起として

- ① 高齢者と扶養家族の現況
- ② 高齢者福祉政策と家族扶養支援政策
- ③ 高齢者福祉政策の発展方向及び政策課題

を示され、老人との共生社会は家族と地域の役割分担が必要だと強調された。

日本側からは、介護はプロに、情緒は家族に実行すれば家族崩壊は防げる。個人の自助と、地域の共助、国の公助が必要。親孝行文化は否定しないが、老々介護の時代は親孝行だけでは乗り越えられない。模範嫁表彰・家庭基盤充実政策等、日本の失敗を繰り返さないで欲しい。

韓国側から、家族介護以外は不慣れなので、外部からの支援体制に対しては人によって考え方が違う。社会的サービスを受けると親不幸という世間体が妨げとなっている。今後は望ましい社会政策をつくる必要がある。今回の討論で韓国は日本の介護の現状を知ったが、実感として判らない部分もあった。今後は従来の視点とは異なる見直しが必要である。苦難の道りではあるが高齢者や女性の人

権を守るため、国家と男性に社会的介護政策を求めて行きたい。その実現のために「日本の高齢社会をよくする女性の会」のような団体を女性の手で韓国にもつくりたい!!」と。

日韓女性のネットワークは、二一世紀韓国高齢者介護の歴史を拓くスタートとなった。
(末包房子・記)



帰国前、観光に訪れた「應福宮」中庭

国際高齢者年記念シンポジウム
第一回シニアサミット

「超高齢社会の

シニアの自立と共生を

団塊世代と共に考える」

「超高齢社会のシニアの自立と共生を
団塊世代と共に考える」という大きなテー
マで、シニアサミットが十月十四日、日
経ホールで開催されました。当日は樋口
さんがパネリストとして登壇、六〇余名
の会員が出席しました。同様の会は大阪
でも開催され、以下はその報告です。

大阪大会は十月二六日ドーンセンター
で開かれました。堀田力氏（さわやか福
祉財団）の、「動物には子育てはあるが、

当会理事の秋山ちえ子さんが、99年
度エイボン女性大賞を受賞！ 平和と
福祉の視点から、あくまでも普通の人々
の感性で、ラジオを通して語りつづけ
た五〇余年が高く評価されたものです。
女性と障害者の側に立つ秋山さんのメ

エイボン女性大賞に輝く秋山ちえ子さん

ッセージに、どれだけ多くの人々が勇
気づけられたことか。
当会へのいつも変わらぬご支援をあ
らためて感謝し、喜びを共にしたいと
思います。

（樋口恵子）

介護はないところが人間との大きな違い
だ、：長寿社会の今は『余生』という考
え方から解放されよう」と、笑わせなが
らも高齢社会のなかでそれぞれがどう生
きるかを考えさせる基調講演があり、団
塊世代の田中尚輝氏のコーディネートに
よるパネルディスカッションに移りまし
た。私たちの会の代表竹中恵美子がパネ
リストとして出演し、「高齢者の問題を論
じるとき、男性とは別に高齢女性の問題
は貧困と切り離して考えることはできな
い」という切り口から、女性の生涯賃金
の低さが高齢になったときの経済生活の
貧しさに繋がり、自立への妨げの一因と
なっていると、数字も交えながら短い時
間に分かりやすく話されました。最高齢
は三好俊夫氏（松下電工会長）七八歳、

一番若い田中羊子氏（高齢者協同組合専
務理事）三七歳まで四〇年の世代差があ
ります。それぞれの立場による主張の違
いはあるものの、「シニアの自立と共生」
という共通のテーマへの理解と情熱が、
参加者も巻き込んで熱気のあるシンポジ
ウムとなりました。

高齢社会をよくする女性の会・大阪

（山田芳子・記）



大阪大会に登壇した皆さま

野の
崎さき
節せつ
子こ

新しい千年紀

(ミレニアム)の一步



初雪が舞い、木の葉が舞い、山肌にもみじの色を少し残して、北信濃の山々は眠りについたのですが、長野の女たちはこれから腕まくりです。第19回の全国大会の準備が本格的になります。

会員はもちろん、頼りになる男性専門職二人を混じえ、日頃親交のある活動家たちが企画メンバーとして参加。毎回その賑やかなること!! 疲れると、自信のある人が持参した野沢菜漬けや、りんごでエネルギーを補給し、ポストイットで課題を出し合ったり、オランダやカナダの見聞が披露されたり。自公の連立に振りまわされて溜息がもれたり。とにかくミレニアムの大会の全体像を共通認識し、

バラエティある五つの分科会を構築していくこと。そして多くの男性や、市町村の職員にも、全国の会員の皆様方にも喜んで参加していただける内容をつめこもうと、悪戦苦闘をしております。

長野県も全国有数の高齢県で、高齢化率40%をこえる四村、35%以上は15町村。それだけに早くから多くの住民活動が育ち、積極的な地域医療の実践、女性たちによる老人白書づくり、介護体験集など手づくりされています。県内地方紙「信濃毎日新聞」の「介護のあした」キャンペーンは、丁寧な取材と説得力ある問題点の洗い出しで、新聞協会賞を受けましたが強力なリポートとして御紹介したい

資料の一つです。

企画メンバーの中に27歳の女性二人が入っていますが、彼女たちは「あったかいご」という介護の情報誌を出版しはじめ四冊が出ました。とてもカラフルで活字も大きく、心配りのある編集です。

「介護が必要になるといのは決して特別なことではなく、老いの延長にある当然のことなのに、今の福祉のあり方は不安です…(中略) たとえ介護を受け、介護をするにしても、自分らしく生活を楽しみながら、長生きしたいと思いたい。私たちが望むのはそんな普通のことです」と言って、長野で樋口代表にもインタビューしてました。こんな若い感性も大事にしています。これから実行委員会を立ち上げますが、その中心は、長野市の女性団体。平成四年に日本女性会議を、昨年は世界のオリンピックを支えた女性たちの力に期待をこめています。

プロフィール

県職員として福祉・社会教育。子育て退職。NHK婦人学級、放送利用学級指導員。現在長野家裁調停委員、市女性会館相談員、社国際婦人教育振興会理事

(今回は交渉中です)



ノーマライゼーションの まちづくりに邁進

さかもと ゆうのすけ
坂本 祐之輔
(東松山市長)

昭和30年埼玉県東松山市生まれ。昭和62年に東松山市議会議員。平成6年県下最年少で現職となる。現在2期目。

市長選の再選を果たした昨年夏、三重県鳥羽市でスカイダイビングをした。三五〇〇フィートから時速二〇〇キロで飛ぶ爽快感はなんともいえない。鳥羽市ではまちおこしの一つとして、「鳥の羽」からスカイダイビング事業を進め、世界大会をこの地で行いたいとのことである。私もスカイダイビングをしたのは、この時始めてである。事の起こりは、鳥羽の市長さんとの話のなかで、スカイダイビングのことが出て「坂本さんなら飛べるよ。羽毛ふとんを数十枚重ねたうえへ飛び降りるような感じだよ。大丈夫。大丈夫。」と言われ、その気になったのが運のつきである。ヘリコプターではるか高くなるのほり、地上が地図のように見えてきた。途中でインスタラクターから「男性は十人中二人がまたへりで降りてしまいが、女性は十人中十人が飛ぶ。」という話しかがた。途端足がすくんでしまったが、後の祭である。

このとき、つくづく女性はいたいしたも

のだと思った次第である。

さて、来年度から介護保険が始まる。寝たきりの高齢者の介護をするのは大半が女性である。こうした女性たちにとって介護保険は、救世主ともいえるべき待ちに待った制度である。社会的介護への移行は、女性の強い意思の現れであると共に、男女共生参画型社会への大きな一歩でもあると思う。

私のまち東松山市では、「障害のある方もそうでない方も、ともに暮らしを分け合い、安心して住めるまち。障害を持つたとしても、自分の今任んでいるところで安心して、自立して、生活を続けていくことができる」ノーマライゼーションのまちづくりに努めてきた。

その成果が、介護保険制度の実現により、年をとり、障害を持った高齢者への対応と一致し、いま首都圏では福祉先進地と目されている理由である。今後ともノーマライゼーションのまちづくりに邁進したい。

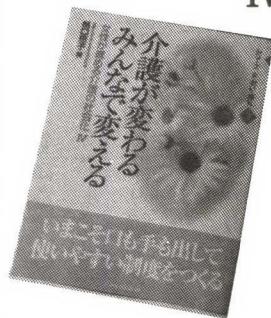


シリーズ 女・老い・福祉

ミネルヴァ書房刊
樋口恵子編

「介護が変わる みんなで変える」 女性が進める介護の社会化 IV

(定価二〇〇〇円十税)



二十一世紀を目前にして政治や経済システム、そして私たち一人ひとりの生きかたが変革の季節を迎えています。本書ではこのような状況のなか、一九九八年九月五日・六日に、名古屋で開催された、第一七回「高齢社会をよくする女性の会」全国大会の分科会のもようを、ダイジェスト版にしてお届けします。大会は、愛知、岐阜、三重の東海三県の主催で開催、たくさんの方の参加で活気に満ちみちたものでした。また、高齢化を縦系に、男女共同参画社会の実現を横系にして、介護保険前夜のいまを、幅広い範囲の専門家が熱く語り合ったことは大変有意義なものでした。当日参加されなかった方も、された方も、あの活気をもう一度感じるためにご一読をお勧めします。

お申し込みは、事務局までご連絡ください。一冊、会員価格二、〇〇〇円十送料(三〇〇円)で送らせていただきます。十冊以上まとめてご注文の場合は、送料当会負担でお送りします。

お申し込み方法は下記宛、TEL、FAX、ハガキでどうぞ。

〒160-0022 新宿区新宿二ノ九ノ一ノ八〇二

高齢社会をよくする女性の会

TEL 〇三(三三五六)三五六四

FAX 〇三(三三五五)六四二七

なお、シリーズ 女・老い・福祉の既刊本のご注文も受け付けております。

事務局だより

学習会を終え東京と大阪から「日韓嫁学事始」研修ツアーに一般からも多数のご参加があり盛会となりました。内容が大変よかったですというお声が届いて嬉しく思います。皆様大変お疲れ様でした。

「荒波越えて船出せよ！介護保険」をタイトルに、怒り噴煙し続ける介護保険丸を沈没させるものかと、嵐について私たちは討ち入りました。報告は次号で。

▼次回のオープンハウスは新年一月二十四日(月)、午前十一時～十六時迄です。一日中お話がはずんです。待っています。

▼平成十一年度の会費未納の方に、再請求振込み用紙を同封いたしました。お早目にお振込みください(ご不明な点は事務局へおたずねください)。

▼新春例会は一月三十一日(月)チラシご参照の上早目にお申込みください。

▼事務局は十二月二十七日(月)を仕事納めとし、来年は一月七日(金)を仕事始めとさせていただきます。皆様よいお年をお迎えください。

(長井照子)